

杜の都の環境をつくる審議会
第3回「仙台市みどりの基本計画」改定検討部会 議事概要

日 時：令和2年7月13日（月）14時00分～16時00分

会 場：市役所本庁舎6階 第一委員会室

出席委員：舟引部会長，池邊委員（ウェブ出席），小貫委員，近藤委員，福岡委員（ウェブ出席），
渡邊委員（計6名）

欠席委員：なし

事務局：建設局長，百年の杜推進部長，百年の杜推進課長，同課全国都市緑化フェア推進担当
課長，同課主幹兼企画調整係長，同課緑化推進係長，同課緑地保全係長，公園課長，
同課公園整備担当課長，同課主幹兼施設管理係長，同課公園マネジメント推進係長，
同課青葉山公園整備室長，河川課主幹兼広瀬川創生室長
（計13名）

司 会：百年の杜推進課長

1. 開会

○事務局（岡田課長：百年の杜推進課）
—開会—

2. 挨拶

○事務局（千葉局長：建設局）
—挨拶—

○事務局（岡田課長）
—配布資料の確認—

○舟引部会長
—議事録署名人の指名，傍聴ルールの説明—
・議事録署名人：舟引部会長，近藤委員
（了承）

3. 議事

(1) 次期仙台市みどりの基本計画の構成・骨子（案）について

○事務局（水嶋主幹：百年の杜推進課企画調整係）
—資料説明（資料1，資料2）

○福岡委員

- ・様々な計画が仙台市の中で動き出していることが分かった。
- ・これらの計画と現在検討されているみどりの基本計画との整合性を保つために工夫出来る点がある。
- ・みどりの基本計画と環境基本計画で位置づけているグリーンインフラについて都市計画マスタープランや勾当台エリアビジョン等の他計画との整合性を取りながら，もう少し踏み込んで書けないものか。

○事務局（岡田課長）

- ・グリーンインフラについては，みどりの基本計画の中でも中心に据えて検討を進めているが，

本市の総合計画の中でも重要な形で位置づけてもらっている。

- ・グリーンインフラの定義や捉え方については、みどりの部門で整理し、仙台市全体のグリーンインフラの捉え方に反映してもらえるように調整を続けている。

○福岡委員

- ・都市計画マスタープランや勾当台エリアビジョンにもグリーンインフラを積極的に位置づけてほしいということである。みどりの基本計画は策定中なので、難しい部分もあるだろうが、他部局を巻き込んでいくことが大事だと思う。

○渡邊委員

- ・総合計画のほうの図も軽い。もっと魅力のある図が描けないか。
- ・今回の総合計画ではGreenest という話をしているので、みどりの基本計画の図こそが最初に出てくるというくらいの意気込みで良い図を作ってもらいたい。

○小貫委員

- ・資料1の策定スケジュールでは10月頃に市民参画イベントを実施するようだが、大勢が一同に集まらない形で市民から幅広く意見を集める方法を検討してもらいたい。

○事務局（水嶋主幹）

- ・イベントと記載したが、コロナの影響で開催はおそらく難しいと想定している。
- ・従来実施したことがない方法となる可能性もあるが、オンライン等の活用も検討したい。

○舟引部会長

- ・オンライン参加型の会議は、スマホでの参加も可能なので検討してほしい。
- ・お願いがある。今、総合計画の見直しに伴って、それぞれ諸般のマスタープランが同時並行的に改定作業を行っている。文言を合わせて、市役所全体で同じビジョンを見ている状況となるよう調整してほしい。

○池邊委員

- ・都市計画マスタープランに記載のある「選ばれる都市へ挑戦し続ける“新たな杜の都”」は、非常に良い戦略である。
- ・都市緑化フェアは今回のみどりの基本計画の中でも1つの目玉であるが、例えば市民がみどりと親しむ仙台スタイルといった、新たな百年の杜づくりというのを市としてどう考え、市民や企業がどのように参加していくのが全く見えない。
- ・昨今はウィズコロナ、アフターコロナの中で、ライフスタイルの変化が必要だろうという話が出てきている。仙台はIT企業の働き方に合っており、選ばれる都市だと感じている。今度の都市緑化フェアを海外に向けての営業ツールとして、新しいライフスタイルを提案すべきだ。
- ・グリーンインフラは他都市でも取り組んでいる話であり、ウィズコロナ、アフターコロナの中で仙台という都市がどう選択・展開していくかという視点を入れることで、選ばれる都市というところに結びつくのではないか。その辺りのブラッシュアップをお願いしたい。

○舟引部会長

- ・コロナに関しては、仙台と首都圏では危機感が相当違うので、また機会をみて伝えてほしい。

○事務局（菅原主任：百年の杜推進課企画調整係）

—資料説明（資料3）

○小貫委員

- ・少し入れ子になり過ぎていて分かりにくい。みどりの将来像のところに書いてある内容と基本方針がほとんど同じ話で、それぞれの主語が、みどりの将来像がみどり、基本方針がまちに変わっているだけのように見える。

- ・もっとシンプルに将来像を示したうえで、市政としてグリーンインフラをうまく活用するとし、具体的に何々をするという流れで十分ではないかという印象がある。

○事務局（岡田課長）

- ・みどりの将来像は、どのようなみどりを実現したいか、基本方針は、そのみどりが仙台市に何をもたらしてくれるのかをまとめたものであり、ほぼ1対1で対応するような形になっている。もう少し整理して、分かりやすい形で示したい。

○近藤委員

- ・将来的な仙台らしさを何にするのか、将来的な杜の都は具体的にどういうイメージなのかというのを作っていくことが重要である。

○舟引部会長

- ・総合計画でも都市計画マスタープランでも「挑戦し続ける」というのが共通している。その手段として、グリーンインフラがある。
- ・そのグリーンインフラをもって、次のステージの杜の都をどうするのかは、みどりの基本計画で提案する必要がある。

○小貫委員

- ・賛成だ。この将来像のところにもう少し「こうなりたい」という強い意志がほしい。

○事務局（岡田課長）

- ・今回のみどりの基本計画では、これまで自分たちが守り育ててきたみどりが仙台市に何をもたらしてくれるのかといった「活用」というところを強く打ち出していきたい。人々の生活の中に、よりみどりが入り込んでくるようなものが、新しい杜の都に繋がっていくのではないかと考えている。

○渡邊委員

- ・池邊委員が指摘された「仙台スタイル」という言葉が大事なポイントとなると思う。
- ・杜の都が更なる高みへ向かうには、何の為に、誰の為にという点が重要である。
- ・この「仙台スタイル」は正にウィズコロナ、アフターコロナのキーワードになってくる。それを下支えするのがみどりの基本計画だという建付けがないと人やまちの魅力に繋がっていない。その視点が弱いのではないか。

○福岡委員

- ・みどりに関わるあらゆることを網羅的に書かれてはいるが、みどりの将来像と基本方針の違い、位置づけが少し分かりにくい。基本理念のところ、仙台のGreenest Cityのイメージをまず示すと良いのではないか。みどりの将来像が基本方針の上位にかかってくるものであれば、表現は端的にして、このみどりの将来像が相まって、どのようにGreenest Cityを作っていくのかが見えたと良い。見え方がフローチャート的で、市民にとっては分かりづらい。Greenest Cityを構成する大きな骨組みが何なのかを将来像として示せたら良い。
- ・主な事業・取組みが必ずしも基本方針にはまっていないと思う。
- ・青葉通の広場化や仙台市役所本庁舎をみどりで覆うような話も事業として書くと良いのではないか。
- ・グリーンインフラは施設整備的な観点で捉えられる方が多いが、いかに人をみどりの活動の中に引き込んでいくかがとても大事だと思う。
- ・事業を整理して、重みのあるものを見せ、重要度の低いものは省いても良いのではないか。
- ・理念が事業まで落とし込まれていないことが課題だ。基本方針から事業までの流れを実現する為の工夫が必要である。

○池邊委員

- ・基本方針は従来のどこにでもある基本方針だなという印象がある。

- ・取組の姿勢の部分が市民には伝わりにくいのではないか。グリーンインフラの推進とあるが、この基本計画の中で仙台なりにどう消化して、旗印にしていくのかを整理してほしい。そうすると、基本方針の文言も変わってくるだろう。
- ・みどりの領域にとどまらずに、福祉や教育、文化、観光といった様々な他のセクションにも働きかけないと、投資を呼び込むまちには繋がらない。
- ・AI やバーチャルリアリティー等を含めて、新しい形の都市像にフォーカスしないとなかなか投資を呼び込むことは難しいだろう。
- ・みどりの計画にどうチャレンジを位置づけるかと、SDGs の視点も入れ、取組の姿勢を A3 という紙面の中で一般市民にも分かるよう工夫し取りまとめてほしい。そのうえで、前回のみどりの基本計画よりも、より市民・企業に寄り添うものだとアピール出来れば良い。

○舟引部会長

- ・総合計画審議会でも、最初の哲学のところ、もう少し外に踏み込むことを考えるべきではないかと議論になっている。そちらを参考に、みどりの基本計画でもどれだけ踏み込めるか考えてほしい。

○事務局（千葉局長）

- ・みどりの基本計画に個性や特徴をもっと出すべきではないかという問題意識はある。
- ・仙台らしさや仙台スタイルなどを、もっと前に打ち出すような基本方針を考えていきたい。
- ・我々の認識する将来像は、これまで取り組んできた百年の杜づくりのベースを評価しつつ、それを次世代に引き継ぎ、活用できていない部分を有効活用しようという方向にある。また、更新や維持管理といった手入れをしっかりと続け、みどりを次世代に引き継いでいけるようなものを作ろうとしている。A3 の 1 枚にまとめようとする、なかなか難しいが工夫し、そのような気持ちが伝わる見せ方を検討していきたい。

○小貫委員

- ・1 枚でなくても良い。きちんと読んで理解することが出来る資料を作ってほしい。

○舟引部会長

- ・次の議事については、事務局には、これから 5～10 年間の中で、みどりのセクションだけに囚われずに他部局も含め広くグリーンインフラで取り組めるプロジェクトについて整理してもらった。各委員よりグリーンインフラとしての位置づけについて示唆をもらいたい。

(2) グリーンインフラに関する取組み（案）について

○事務局（菅原主任）

—資料説明（資料 4-1, 4-2, 4-3）

○事務局（水嶋主幹）

—資料説明（資料 4-4）

○小貫委員

- ・資料 4-4 を読んでわくわくしない。基本計画で 10 年取り組むと、山やまちはこうなるという楽しさがない。そういうものがないと市民と一体となって新しい杜の都を作っていくことは難しい。どの施策を重点的にやればそのようなまちになるのかという整理がないため、全部総花的になってしまっている。資料 4-4 にあるような図ではないと思う。

○渡邊委員

- ・資料 4-2 の一番右の列に、担当局や関連する他部局が記載されており、とても素晴らしいと思う。関連する他部局はどのような反応を示しているのか。
- ・グリーンインフラとは正にインフラなので、インフラは使わなくては勿体ない。他部局への働きかけも必要なのではないかと思う。

○事務局（岡田課長）

- ・各関連部局と調整し、合意を得られたものを掲載している。まだ載せられないものもいくつかある。

○福岡委員

- ・資料4-1の展開図は大事であり、この奥山・里山から都心、市街地、河川、地域全体、沿岸部という分け方は良いと思う。その地域ごとにグリーンインフラとしての課題や可能性を見いだせると思うので、その図が1つほしい。
- ・エリア別のグリーンインフラの大きな像を俯瞰図などより良い方法で示し、その後に、エリアごとにこれから展開していくグリーンインフラの取組みをどう見せていくかという流れがわかるよう、全体図、構成図、見取り図のようなものが必要になるのではないか。
- ・市の内部でこれから起こり得る全てのプロジェクトを落とし込み、その中から重要性の高いものに優先順位をつけて取り組んでほしい。
- ・これからこの部署には、都市計画や農政からみどりまでエリアごとの事業や施策を横繋ぎしていくようなコミュニケーション能力の高い切り込み隊長のような人材が必要になるだろう。
- ・事業については、透水性舗装の導入など具体的で良いと思うが、全部みどりの課でグリーンインフラ事業を立てるのではなく、下水道や道路の計画の中にグリーンインフラに位置付けたものを入れ込んでもらえるかということをやっていないと、うまく行かないだろう。
- ・エリア別の展開図と事業の仕分けを重要なものは目立つようにして整理すると良いのではないか。
- ・ソフトやプログラムがみどりの基本計画の最初の像に繋がっていくという道筋が見えると「郊外でもこういうことをやってみたい」といったことが出てくると思う。そこに向けて道筋を整理して、見える化をしてあげることが大事なのではないか。

○事務局（岡田課長）

- ・資料4-1は仙台市域全体で、グリーンインフラをどう展開していくのかを一目で理解できるよう作成したものだが、エリアごとにどのように展開できるかということを知りやすく示せるよう工夫したい。
- ・事業の優先順位については、次回の部会で重点プロジェクトという形で示したい。
- ・水処理の関係については、下水道担当部署とも調整を進めており、難しい部分もあるが、双方を融合させ、グレーインフラだけでは賄いきれない部分をグリーンインフラでも受け持つような形で事業を進められないか調整を進めている。

○池邊委員

- ・昨今、水災が多発しており、仙台でも内水氾濫が起きている。みどりで自然災害に備える、水循環を支えるみどりの基盤をつくるというのが、具体的にどのように取り組むのかが書かれていない。
- ・個票シートの書き方が、まるで方針の書き方になっており、個票にしては具体性がない。先進事例を用いて書いているが、説得力、リアリティに欠けている。積極的な書き込みをしてほしい。

○小貫委員

- ・継続事業の書き方について、これまでどういう成果があって、どこが課題であるか、また今後10年どうしていきたいのかを具体的に個票に書く必要がある。グリーンインフラに関わらない話でも、この10年の計画の中で取り組むべきことがまだあるかもしれない。きちんと洗い直したうえで個票のシートを作成してもらいたい。

○事務局（岡田課長）

- ・現行のみどりの基本計画の振り返りについては、しっかりと整理して、新しいみどりの基本

計画に繋げていきたい。

- ・個票の精度については、色々な部局との調整を更に進めて、もっと具体的なものをお示しできるように努力したい。

○事務局（千葉局長）

- ・資料4-4のA3の図面については、私達にとっても非常に悩ましい図面である。グリーンインフラは説明が難しい。何かアドバイスをもらいたいところである。

○福岡委員

- ・グリーンインフラだけを取り出すのではなく、冒頭のA3の1枚（資料3）も色々な形で図化できると思う。例えば、Greenest Cityを実現するための非常に大事なことがあるのであれば、そういう図も出来る。その中で、グリーンインフラによって、どのように全体が変わっていくのかという大きい構造が見えるような工夫をされたほうが良いのではないか。あまり個別の要素に引っ張られないで、エリアごとに、魅力的な空間像を伴いながら、描いていくことが大事だと思う。
- ・仙台はこれまで継承してきた百年の杜としてのストックがあるが、グリーンインフラという考えが入ったことによってどう変わるのか、そこに、働いたり、住んだり、学んだりしている仙台市民がどうやってみどりに関わっていきけるのかが、ストーリーとして描ければ良い。端的に1分で分かる荒い構造があると良い。
- ・仙台の人が改めてみどりを再認識するには、緑量を増やすだけでは足りない。Greenestにならない。どうやって実現していくかが見えるために、重要なものだけ残した分かりやすい図があると良いと思う。
- ・グラフィックデザイナーに入ってもらい、図を作ってもらってはどうか。

○池邊委員

- ・名古屋市を参考にすると良いのではないか。名古屋市の場合は、西部の沖積平野と中央部の沖積台地と東部の丘陵地ごとに平面図と断面図を描いている。その下にグリーンインフラのハード施策とソフト施策を分けて例示している。その中に建物、河川、運河、農地、公共用地が描いてある。グリーンインフラという技術について、一般市民にわかりやすく説明されていると思う。より良い、仙台らしいものを描いてほしい。

○小貫委員

- ・大学でキャンパス整備を進めるときは、将来こうしたいという絵を先に描き、それに向かっていかに調整していくかということが大事になる。経験上、目標となる絵、イメージがあることがハードにはとても大事であり、それを支えるソフトとして、グリーンインフラや市民参画といったものがあり、こういうふうに関わるとこのようなまちが出来るというイメージがあることが、情報共有していくためには必要ではないか。
- ・仙台市が目指す「杜の都」について庁内で議論し、そのイメージを共有することが大事ではないか。

○近藤委員

- ・大きく捉えているところに、細かいものを入れようとするのは駄目だと思う。段々細かくして、その下をどうするかという考え方をすることが必要だ。これでは少し分かりにくい。
- ・絵や図面は、その目的をしっかりと具体化して、それに向けた図面を例にしていけないと、ちぐはぐになってくる部分が多々あると思う。いくつも組み合わせて良いと思う。考え方として、全体平面図があり部分図があるという構成は大事ではないか。

○舟引部会長

- ・例えばグリーンインフラを舞台にした仙台ライフスタイルということを考えたときに、何か新しい絵が出てこないか。

- ・1つは市民に向けて、グリーンインフラに取り組むことによってどうなるかということを示すことと、もう1つは役所の中向けの施策の整理図という面があり、両方を1つのものに求めるには無理がある。
- ・グリーンインフラとは何かを説明したうえで、仙台のライフスタイルをポストコロナのスタンダードとして位置付けるくらいの強い話があると良い。
- ・何種類か描いてみて、そのうちどれをどのフェーズで、説得力を持たせて使うかという話だと思う。1つにしようとする、無理がある。

○小貫委員

- ・みどりの計画に関わらず、様々な他の報告書の事例・まとめ方の例を参考にすると良いのではないか。

○事務局（千葉局長）

- ・新しくこうしたいという部分を強調しながらも、仙台市は海側から山を見ると、水田の奥に大都市があり、さらにその奥に奥羽山脈がそびえて見えるという非常に良いインフラが整っており、それらを再認識して、守り続けていくことも大事である。表現すると地味になりがちだが、そのようなことも踏まえて検討していきたい。
- ・地区的に、どのようにしていきたいかというものを絵にして、考えていきたい。

○舟引部会長

- ・市民は何となく分かってはいても、よそから来た人間にとっては、大変良い眺めだと思う。そういうものをどのように、しっかり表現できるかというところだと思う。

○福岡委員

- ・世田谷区の豪雨対策行動計画に関わっていたが、当時は、みどりの基本計画と豪雨対策行動計画と環境基本計画の3つを同時に策定して、グリーンインフラをそれらの計画に組み込んだ。その豪雨対策行動計画では流域対策として緑地を位置づけている。緑地を定量的にどれくらいの面積で流域対策量としてカウントしていくかを書いているという点が大きい。
- ・仙台市としても、内水氾濫が起きやすい場所はハザードマップに出ているはずなので、そこに、どういうエリアで緑地、道路、駐車場、建築等を組み込んでいったら効果的なのかは、検討すべきだと思う。土木や道路、下水道にとっても、重要な課題であり、優先度は高いと思う。実施するうえでそういうところも意識されてはどうか。
- ・みどりの基本計画の中でも緑量に加えて、流域対策量といったことも書けると、将来、下水道が計画を立てるときに踏み込んで、お互い繋ぎ合わせるような形になれるのではないか。
- ・世田谷区では、先月からみどりと水のそれぞれの部署のメニューを掛け合わせようと動き出している。仙台も限られた人とお金の中で最大の効果を上げていくには、そのような部分で知恵を絞る必要がある。みどり系以外のどの部署と一緒にどのように事業を動かしていくか、戦略的に練って入れ込んでおいたほうが良いのではないかと思う。
- ・グリーンインフラの取組みは、自治体によって、みどりが主体になっているところもあれば、下水道が主体になっているところもあり、まちまちだが、どう位置付けられるかが大事だ。

○事務局（岡田課長）

- ・雨水対策、特に内水の対策については、グリーンインフラとして、最も重要視して、重点的にやっていきたいところである。現在、仙台市の総合計画の中でも、防災環境都市ということで、防災の中にグリーンインフラを具体的に示してくれている。非常に追い風になっており、我々としても下水道担当部署と話を進めていきたいと考えている。

○舟引部会長

- ・内水対策におけるグリーンインフラの話では、去年の台風で仙台駅西口側のロータリーが冠水したが、例えば冠水しても、すぐ隣にある青葉通の緑地帯で水をはけさせるという考えが

ある。

- ・仙台は、台地の上にあるため、他の大都市と違い、排水は割と良い。総体的には安心なのだから、さらにグリーンインフラを推進し、まちの安全性を高めることで仙台に人や企業を呼び込むロジックのプラスになるともっと良い。

○小貫委員

- ・近年、富沢の水田などでかなり開発が進められたが、今後、開発と人口が減ることと、開発された水田というみどりについて、どのように仙台市としては捉えていくのか、分からない部分がある。

○事務局（千葉局長）

- ・仙台市の場合は、平成元年頃から、集約型の市街地形成を行っている。現在、開発が進められている地区は、以前に開発を認めていたところであり、これ以上の拡大ということは、現状のところは、あまり想定しておらず、抑制していこうという方向にある。
- ・みどりの基本計画もきちっと方針を明確にして出すことによって、都市計画マスタープランのほうでも、保全しやすくなるというのがあるので、そこは強調して、議論して位置づけていきたい。

4. 閉会

○事務局（岡田課長）

- ・以上で、杜の都の環境をつくる審議会第3回仙台市みどりの基本計画改定検討部会を閉会とする。
- ・次回は、9月上旬の開催を予定している。第86回杜の都の環境をつくる審議会は8月下旬を予定している。